



地域の華やかな夏祭りを支える人々

水口東中学校2年 村山 柚樹 さん

甲賀町の大鳥神社で毎年7月23日、24日に行われる華やかな夏祭り「大原祇園」を支える人々取材しました。



花奪いには、約2300個の花の製作が必要になります。昨年までは三家族が手分けをして製作していましたが、今年からは中根さんに製作を引き継がれて、一家族だけで全ての花を作られました。

家族で、2300個の花を製作



▲大鳥神社で行われる「花奪い」

毎年200人が関わる地域の夏祭り「大原祇園」とは、大原祇園は、600年ほど前の室町時代から行われている歴史ある祭りです。祭りが始まった当時は、疫病がはやっており、厄を払うために始まったと言われています。大原祇園では毎年200人が準備に関わり進められています。祭りのメインは、参拝者が花を取り合う「花奪い」で、準備の中でも大変なのが花奪いで使用される花の製作です。

Q.. 祭りで花奪いを見た時どんなことを思いましたか？
A.. 今年は自分が花を作ったので、曲がっていないか、崩れていないかと気にして見てしまいました。

Q.. 花の製作で苦労したことは？
A.. 立体的に作るのと花びらの筋である花脈を表現することで、
また、今年は仕事の都合上、製作を1月から始めたこともあり、花びらの型紙をとるだけで1カ月かかった時にはどうなるかと思いました。
ただ、花を仕上げないと祭りが始まらないという気持ちで夜中の2時まで製作したこともありました。



▲花の製作について説明する中根さん

花奪いで使う花の製作者である中根さんにインタビュー



▲作業所で花びらを製作する中根さん

Q.. 伝統的な祭りを続けるには？
A.. 自分が実際に花を作ってみて裏方の大切さがわかりました。また、祭りに子どもが参加することで、にぎやかに地域で活躍することにつながっていくと思います。
祭りが終われば、花の製作が始まる。
花作りは7月に祭りが終わるとすぐに始まり、1年がかりの大変な作業になります。中根さんは「一人ではできない作業なので、家族と一緒に頑張るだけしたい」と2年目の製作にも意欲的に話してくださいました。
歴史的な祭りをずっと続けていけるのは、地域の人々が、協力し支えあうことのできるのだと取材を通して、わかりました。



絶好のシャッターチャンス

カメラは面白い

うまく撮れるかな

テーマを決めましょう

子ども議員の提案を実現

市の魅力や疑問を探れ

夏休み

子ども特派員 子どもキャスター

ピントを合わせて

映像チェックします

取材よろしいですか？

こんな書き出しは！

市では、小学5年生から中学2年生までを対象に、夏休みに活動する子ども特派員と子どもキャスターを募集しました。
子ども特派員は、今年1月のかふか21子ども未来会議の子ども議員からの「子ども自身が広報紙づくりに参加し、子ども目線のページを作りたい」という提案を実現したものです。応募のあった4人の皆さんが、自分たちで決めたテーマを基に、取材や原稿作成に取り組みしました。
行政情報番組「きらめきこうか」に出演する子どもキャスターには6人の応募がありました。スタジオ収録などを通して分かりやすく伝える工夫や、笑顔を心がけることの大切さなどを学びました。
次のページからは、子ども特派員がそれぞれに作成した記事を掲載しています。子どもキャスターの活動も写真で紹介しています。子どもたちの活躍をご覧ください。